

ダブルカットバリダJ粉剤3DL

■種類名：シラフルオフェン・カスガマイシン・トリシクラゾール・バリダマイシン粉剤

■有効成分：シラフルオフェン-----0.50%
 カスガマイシン塩酸塩-----0.34%
 [カスガマイシンとして-----0.30%]
 トリシクラゾール-----0.50%
 バリダマイシン-----0.30%

■登録番号：第23088号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2012.06.13
 ■性状：類白色粉末 45μm以下、浮遊性指数20以下
 ■有効年限：3年
 ■包装：3kg×8袋

【特長】

- いもち病防除剤ダブルカットと紋枯病防除剤バリダシン、殺虫剤ジョーカーとの混合粉剤。
- カスミンを0.3%配合しており、もみ枯細菌病にも効果がある。

【適用内容】(2015年10月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シラフルオフェンを含む農薬の総使用回数	カスガマイシンを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 コブノメイガ イナゴ類 イネツトムシ	3~4 kg/10a	穂揃期 まで	2回 以内	散布	2回以内	4回以内 (種子浸漬は 1回以内、 育苗箱への 処理は1回 以内、本田 では2回 以内)	4回以内 (育苗箱への 処理は1回 以内、本田 では3回 以内)	6回以内 (育苗箱灌注 は1回以内、 本田では 5回以内)

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は飛散を少なくするように製剤化されており、一般の粉剤に比べ、見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を一目盛程度しぼって散布すること。
- 本剤によるもみ枯細菌病の防除はいもち病との同時防除として穂ばらみ期～穂揃期に使用すること。
- 稲に使用する場合、次のことに注意すること。
 - ◆ 株元、葉鞘部に対しても散布むらのないように全体に均一に散布すること。
 - ◆ 紋枯病に対する本剤の防除適期は病斑の上位葉鞘への進展初期の頃であるので病斑の進展を確認してから適期に散布すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- れんこんには薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- 野菜類の幼苗及びなし(二十世紀、幸水、新水等)には、薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- きく(秀芳の力等)には薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
散布後は水管理に注意すること。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。